

CMO#152 は、1995 年の最接近(11Feb)前の年末號で、寒いときに相当にご苦労様なことだが 31Dec、1Jan、2Jan と年越し同時早朝観測の計画が巻頭に告げられている。期間中日本からはシヌス・サバエウスからソリス・ラクス邊りまで見えたようである。 λ は 040° Ls 直前。冒頭記事は、タイミング良く日岐(Hk)氏の防寒対策が述べられている。経験では観測中マイナス 7°C というのがあるそうだが、寒さよりアイピースの結露や鏡筒バンドの問題の方が深刻らしい。支度はスキューエアだそうで、丁度この頃は朝方の観測だから、パジャマの上にセーターを着てその上にスキューエアを羽織るということになるらしい。手袋は使わない由。十二月は最もシーイングが悪いと述べられている。

MarsSection 報告は 16Nov から 15Dec1994 までの一ヶ月間。視直径はまだ 15Dec で $\delta = 9.6''$ だが、一ダースの観測者が揃っている。パーカーさんは早くから始動して、主に十一月に多く全体 19ccd 像を報告している。日本では Nov 後半は欠惻日がないようである。筆者(Mn)は一ヶ月間で 61 観測、続いて村上(Mk)氏(15cm 反射)が 30 こなしている。Mk 氏には八日連続の記録がある。Mk 氏はマレ・アキダリウムあたりを好く観察しているようだが、この事が後にバルティアのサイクロンを捉える下地になっているのであろう。Nov 下旬アメリカ側ではシュルティス・マイヨルが見えているようで、唐那・派克氏の像ではシヌス・サバエウスがマレ・セルペンティスとキッチリ繋がっている。この頃のウトピア邊りは 1980 年代の様子を彷彿とさせた。筆者は天津で反射経緯臺も使うが、経緯臺では 17hGMT では南が上を向くものの、朝方 20hGMT では像が寝ころぶので、岩崎(Iw)氏や Mk 氏にも困難が出る。この頃は私はキツイお叱りをした様で、皮肉を言われている Iw 氏だけでなく、この號では森田(Mo)氏が散々である。要するに、視直径の小さいときの写真観測の場合でも南北線をキッチリ出せ、それには好く観ることということを言いたいらしいのだが、Mo 氏には気の毒なほどキツイ。二度と読む気がしないと思うけど、二度と読む必要のないぐらい今では Mo 氏は克服されて名人である。

LtE ではパーカー(DPk)さんの他、シーゲル(ESg)さんが年末挨拶、Mira さんの誕生はこの年だったそうで、今年(2004 年)丁度シーハンさんが来られた頃十歳になった勘定である。『朝日』の永井靖二(Ng)氏が十二月 9 日が 1874 年の金星凌日の 120 周年というので記事を書いた。LtE で神戸の金星臺の碑のマークが洒落ていると書いている。Iw 氏は年末年始も宮崎に缶詰めのようなものであるが、年越し観測には都合が好いとのことである。Hk 氏の長野は 18 日に -8°C 、積雪 50cm とある。那覇の伊舎堂(Id)氏は十二月初めに那覇マラソンを走っている。Mk 氏もこの頃は LtE に登場して、大崎正次先生の先祖は福井の丸岡と書いてある。当時筆者は PC を持っておらず、ccd 像のプリントなどを送って貰っている。この號の印刷体裁を診ると、これは西田(Ns)氏の臺灣製パソコンでの編集で、記事は未だ「文豪」で書いていると思う。英文は Century で、両端揃っているのはこれはワープロワザではない。十六頁建てで、中島(Nj)氏、Ns 氏と三人作業である。紙は薄い。福井は 15 日が初雪だったようで、今年よりも早い、というか、今年は凄く遅い。